



2020年度(令和2年度) 榎野川河口干潟自然再生 報告書



榎野川河口域・干潟自然再生協議会



1 活動の指標・概要

1.1 活動指標

(1) 親水性の向上

内容	数値	備考
● 活動に参加した延べ人数	259人	榎野川河口干潟再生活動、カプトガニ幼生生息調査、二島小学校総合学習、底生生物モニタリング、きらら浜自然観察公園干潟行事
● 潮干狩りを体験した人数	- 人	-494人(前年度比)
● 環境学習を受けた子どもの人数	48 人	-240人(前年度比)
● 活動に関わった大学・学校の数	3 校	-2校(前年度比) 山口大学、水産大学校、二島小学校
● 活動に関わった企業等の数	4社	-12社(前年度比) あいおいニッセイ同和損害保険、あいおいニッセイ同和山口支店プロ会、伊藤園山口支店、積水ハウス山口工場
● きらら浜自然観察公園の入館者数	7,873人	ビジターセンターの利用者（12月末時点）

(2) 活動の実施内容

内容	数値	備考
● 干潟の耕耘面積	450 m ²	+0m ² (前年度比)
● 被覆網の総設置枚数	集計中	(前年度274枚)
● 被覆網の総設置面積	集計中	(前年度2,360 m ²)
● 環境学習会の回数	3回	-4回(前年度比)

(3) 普及啓発等

内容	数値	備考
● 活動等の取材件数	5 社	山口ケーブルビジョン、NHK日本放送協会、KRY山口放送、宇部日報、山口新聞
● 講演・雑誌掲載・視察の件数	1件	
● ふしの干潟いきもの募金の額	1,554,749円	あいおいニッセイ損害保険(株)寄附金、ふしの募金サポーター（2021年2月末時点）
● ふしの干潟ファンクラブ会員数	43人	+3人(前年度末比)
● ふしの干潟サポーター数(募金協力企業等)	18 団体	2021年2月末時点

1 活動の指標・概要

(4) 指標種

内容	数値	備考
● アサリ収穫量(南潟)	328 kg	(前年度401kg) 2021年2月時点
● カブトガニ(山口湾)		
幼生の発見個体数(長浜+南潟)	448 個体	-407個体(前年度比) 長浜の雷雨中断の影響
幼生の推定個体密度(長浜)	88個体/ha	(前年度162 個体/ha)長浜の雷雨中断の影響
幼生の推定個体密度(南潟)	176個体/ha	(前年度201個体/ha)
産卵調査のつがい数(山口湾)	709 つがい	-147(前年度比)
● 野鳥(山口湾)		
クロツラヘラサギの飛来数	31 羽	+8羽(前年度比)
ズグロカモメの飛来数	116 羽	-24羽(前年度比)
ハマシギの飛来数	630 羽	+165羽(前年度比)
チュウシャクシギの飛来数	506 羽	+138羽(前年度比)
ダイゼンの飛来数	23 羽	+1羽(前年度比)
アオサギの飛来数	集計中	(前年度123羽)
ダイサギの飛来数	集計中	(前年度289羽)
マガモの飛来数	集計中	(前年度1,235羽)
カルガモの飛来数	集計中	(前年度1,012羽)
ミサゴの飛来数	集計中	(前年度25羽)

1.2 活動の表彰歴など

年月	受賞内容	受賞団体
H12	山口県環境保全活動功労者等知事表彰	榎野川漁業協同組合
H17.4	みどりの日自然環境功労賞(環境保全活動部門) 環境大臣表彰	榎野川河口域・干潟自然再生協議会
H17	山口県瀬戸内海環境保全協会会長表彰	榎野川流域連携促進協議会
H18.1	手づくり郷土賞(地域活動部門)国土交通大臣表彰	榎野川の源流を守る会
H22.6	第30回豊かな海づくり大会・環境大臣特別賞 (漁場・環境保全部門)	榎野川流域活性化交流会
H22.8	水資源功績者表彰(国土交通省)	榎野川の源流を守る会
H25	県民活動きらめき賞(山口きらめき財団)	山口カブトガニ研究懇話会
H25.12	第5回プロジェクト未来遺産登録 (公益社団法人日本ユネスコ協会連盟)	榎野川流域連携促進協議会
H29.12	生物多様性アクション大賞2017入賞 (国連生物多様性の10年日本委員会)	榎野川河口域・干潟自然再生協議会 (カブトガニWG)
H31.3	国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J) 認定連携事業 (第14弾)	榎野川河口域・干潟自然再生協議会
R1.11	手づくり郷土賞(大賞部門)国土交通大臣表彰	榎野川流域連携促進協議会、山口県、 山口市

1 活動の指標・概要

1.3 活動一覧

分類	内容	実施主体
干潟再生活動・環境学習活動	やまぐち森・里・川・海自然再生プロジェクト(干潟耕耘・生き物観察会等)	榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所、環境学習WG
	アサリ再生活動(被覆網、母貝団地の設置等)・潮干狩り	山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所、干潟・水産資源再生WG
	あさり姫プロジェクト@榎野川河口干潟	環境学習WG
	やまぐち森・里・川・海自然再生プロジェクト(被覆網のメンテナンス)	干潟・水産資源再生WG
	カプトガニ観察会(長浜・岩屋)	カプトガニWG、山口カプトガニ研究懇話会
	野鳥観察会(土路石川周辺)	NPO法人野鳥やまぐち
	野鳥の教室(きらら浜自然観察公園)	山口市環境政策課
	クロツラヘラサギの保全事業	NPO法人野鳥やまぐち
	クロツラヘラサギを守るための海岸清掃・潮干狩り	NPO法人野鳥やまぐち、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所、協議会
学術研究・調査	底生生物モニタリング	山口県環境保健センター、干潟・水産資源再生WG
	UAVを用いたカプトガニ産卵状況・幼生数調査	山口大学 大学院創成科学研究科 山本准教授
	干満差の大きい干潟における環境DNAのサンプリング方法の検討	干潟・水産資源再生WG 後藤委員
	干潟に生息する肉食性巻貝と二枚貝の捕食-被食関係の解明	水産大学校 沿岸生態系保全研究室 大野氏、須田教授、南條助教
	干潟域を生活史で利用する魚類の生態と成育場の生息環境に関する研究	瀬戸内海区水産研究所 干潟生産グループ 重田主任研究員
	アサリ被覆網内外のマクロベントス山口湾干潟に設置されたアサリ被覆網内外のベントス相	瀬戸内海区水産研究所 干潟生産グループ 辻野主任研究員
	被覆網への藻の付着影響調査	山口県環境保健センター、干潟・水産資源再生WG
	カプトガニ幼生生息調査(長浜・南潟)	カプトガニWG
	カプトガニ幼生生息調査(岩屋・土路石川等) カプトガニ産卵調査(山口湾)	山口カプトガニ研究懇話会
	野鳥モニタリング	NPO法人野鳥やまぐち
きらら浜自然観察公園でのアサリ育成試験	NPO法人野鳥やまぐち	
広報・啓発活動等	ニュースレター、年度報告書	山口県自然保護課
	ホームページ、Facebook、パンフレット	山口市環境政策課、山口県自然保護課
	学会発表・講演等	各委員
	募金活動	持続可能な里海づくりWG
	ボランティア確保(ふしの干潟ファンクラブ)	持続可能な里海づくりWG
	里海再生活動の共感者増加に向けた取組	持続可能な里海づくりWG

※ 新型コロナウイルスの影響により中止した取組は、セルに色をつけています。

1 活動の指標・概要

1.4 ふしの干潟生きもの募金支援対象活動

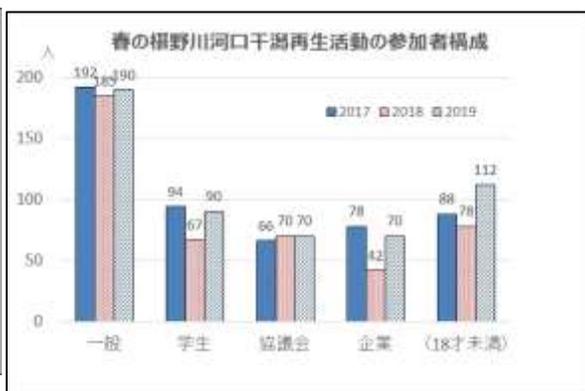
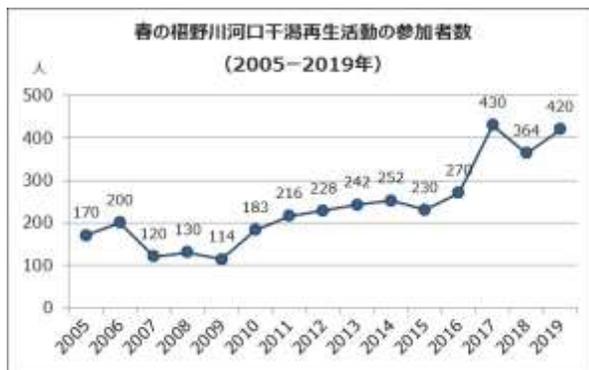
実施者		活動名	要望額/配分額
山口大学	山本 浩一	UAVを用いたカブトガニ産卵状況・幼生数調査	200,000
干潟・水産資源再生WG	水産大学校生物生産学科 沿岸生態系研究室	干潟に生息する肉食性巻貝と二枚貝の捕食－被食関係の解明	200,000
	環境保健センター環境科学部、自然保護課	底生生物モニタリング調査、被覆網への藻の付着影響調査	200,000
	NPO法人野鳥やまぐち	きらら浜自然観察公園におけるアサリ育成場所の造成	200,000
	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産GR 重田利拓・辻野 睦	干潟域を生活史で利用する魚類の生態と成育場の生息環境に関する研究	200,000
	後藤 益滋	干満差の大きい干潟における環境DNAのサンプリング方法の検討	200,000
カブトガニWG	原田直宏	カブトガニ幼生生息調査・観察会	200,000
持続可能な里海づくりWG	株式会社ライフスタイル研究所	榎野川河口干潟等における里海再生活動の共感者増加に向けた取組	80,000
榎野川流域連携促進協議会		榎野川河口干潟再生活動2020	200,000
榎野川河口域・干潟自然再生協議会事務局		ニュースレター作成	100,000
		物品購入費（被覆網）	200,000
ふしの干潟いきもの募金委員会事務局		事務費（振込手数料等）	15,000

2 自然再生活動

2.1 榎野川河口干潟再生活動2020 ～やまぐち森・里・川・海自然再生プロジェクト～

(1) 開催概要

- ・毎年、多くの関係者やボランティアの協力を得て実施している干潟の再生活動。
- ・榎野川の恵みを味わう試食会、干潟耕うん、アサリ再生活動、生きもの観察会等を実施。
- ・2020年4月25日(土)の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止した。
- ・アサリ再生等のための被覆網が、台風10号や被覆網の老朽化の影響により、砂が堆積し、破損も認められるため、榎野川河口域・干潟自然再生協議会の干潟・水産資源再生WGが主体となり、被覆網のメンテナンスや交換、撤去を実施した。



(2) 被覆網のメンテナンス、交換、撤去

- ・開催日：2020年10月29日(木) 12:00～14:00 【中潮、最干潮13:40、潮位92cm】
- ・場 所：南潟
- ・主 催：榎野川河口域・干潟自然再生協議会の干潟・水産資源再生WG
- ・参加者：16人（ふしの干潟ファンクラブ、学生（山口大学）、協議会委員）
- ・概 要：
 - ① 砂に埋まったり、波によりめくれた被覆網を再設置
 - ② 破損した被覆網の修繕
 - ③ 老朽化した被覆網の撤去、交換（被覆網3m×3m(9mm目合)を48枚）



めくれた被覆網の再設置



破損した被覆網の修繕



老朽化した被覆網の撤去



新しい被覆網の設置



南潟の被覆網の状況の上空写真（左：作業前、右：作業後）



作業後の集合写真

2 自然再生活動

2.2 アサリ再生活動

(1) 被覆網の設置（南潟）

アサリが、ナルトビエイ、カニ、クロダイ、アカニシ、ツメタガイ等に食害されることを防ぐために設置。また、波浪による稚貝の飛散を防ぐ効果もある。アサリだけでなく、他の貝類や多毛類の増加にも効果があることが確認されている。

● 被覆網の仕様

- ・使用している被覆網の大きさは、2m×2m、3m×3m、3m×5m、1m×10mの4種類。
- ・目合は9mm(青色)と18mm(緑色)。ナルトビエイの食害防止には30mm程度、カニ類の食害防止には9mm程度が必要である。
- ・2018年度から、管理が容易な3m×3m(9mm目合)の被覆網の使用を開始。

● 設置方法

- ・1mの鉄筋杭により、2m×2mは4点(頂点)、3m×3mは8点(頂点、辺に各1点)、3m×5mは10点(頂点、辺に各2点)、1m×10mは14点(頂点、長辺に各5点)で固定。
- ・設置時、被覆網の縁は土中を掘り起こして埋めている。
- ・2017年度から、県環境保健センターが、四方に鉄筋棒を取り付けた網、市販の安価な網(18mm目合)を検証中。

● 設置面積等

- ・今年度、老朽化した被覆網を撤去し、48枚交換した。
総設置面積は集計中。



● 被覆網のメンテナンス

- ・海藻の付着した被覆網は、折りたたんで干潟に固定。波によって海藻が取り除かれた後に再利用するが、老朽化により使用できないものは、今後撤去し、処分する予定。



南潟の平面図

南潟 (岸側堤防)

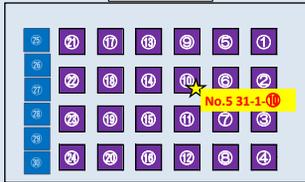
- 3m ← 新しく設置した被覆網
- 2m ← 新しく設置した被覆網
- ★ : 2020モニタリング地点
- ☆ : 環境Cモニタリング地点
- ☀ : 瀬戸内水研モニタリング (7月未まで)

網の種類

- 3m×5m, 9mm目合
- 3m×5m, 9mm目合【母貝】
- 3m×3m, 9mm目合
- 3m×3m, 9mm目合、四方に鉄筋棒
- 2m×2m, 18mm目合
- 2m×2m, 18mm目合、四方に鉄筋棒
- 1m×10m, 18mm目合

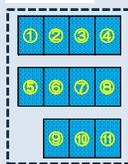
H31耕耘区
15m×30m

区画: 31-1

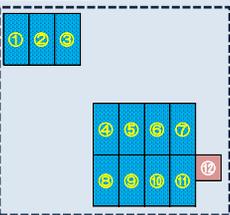


試

区画: 23-1



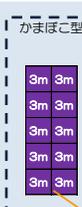
区画: 23-2



区画: 19-2



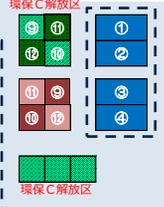
区画: 25-1



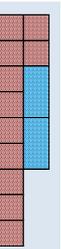
区画: 24-7、28-2 (湿) の混合区



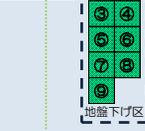
区画: 29-2



区画: 29母貝



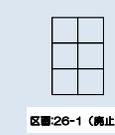
区画: 26



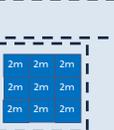
3cm未満達した。(4/20)

H29耕耘区

区画: 26-1 (休止)



区画: 29-1



区画: 28-1 (乾)



環境C解放区

区画: 29-1



区画: 27-1



区画: 30母貝



2018年度 生き物プール 4.5m直径



2018年度 生き物プール 2m直径



区画: 30-2



H30耕耘区 15m×20m



区画: 30-1

沖側

区画: 29母貝



2 自然再生活動

(2) 二枚貝モニタリング調査（南潟）

● 調査方法

- ・ 四半期ごとに、50cm四方のコードラート(深さ25cmまで)、5mmメッシュのフルイを用い、底質中の二枚貝(アサリ、ニッコウガイ科、ソトオリガイ科、ホトトギスガイ)の個数を計測した。
- ・ アサリは殻長も計測した。殻長による年数の目安は、1cm未満：1年未満の着底稚貝、1cm以上2cm未満：1年未満の稚貝(15mm以上で産卵可能)、2cm以上3cm未満：1～2年目の成貝、3cm以上:2年以上の成貝(漁獲可能)。
- ・ 2018年度から、ふしの干潟ファンクラブ会員が協力。

● モニタリング地点・時期等

No.	地点名	開始年度	被覆網の目合	目的	調査時期				張り替え	収穫
					5月	8月	11月	2月		
1	対照区	2007	—	●被覆網の設置無し	○	○	○	○	—	—
2	19-2-① A (岸)	2007	9mm	●活動当初からの経年変化 ●藻の付着(無)の影響を比較(No. 3と) ●アサリ収穫(無)の影響を比較(No. 4と)	○	○	○	○	適宜	無
3	29-1-⑫	2017	9mm	●設置から3年(漁獲可能か確認)	○	○	○	○	適宜	無
4	30-1-23	2018	9mm	●設置から2年(漁獲可能か確認)【鉄筋網】	○	○	○	○	適宜	無
5	31-1-? 31-1-?	2019	9mm	●設置から1年(漁獲可能か確認)	○	○	○	○	適宜	無



2 自然再生活動

● アサリモニタリング結果 (詳細は4.1底生生物モニタリング調査参照)

アサリ (個体数/m²)

地点名	5月	8月	11月	2月
対照区	12	12	12	0
19-2-1	520	460	424	180
29-1-12	20	44	0	4
30-1-23	388	20	220	224
31-1-10	12	4	20	12

シオフキガイ (個体数/m²)

地点名	5月	8月	11月	2月
対照区	0	4	0	0
19-2-1	0	4	4	0
29-1-12	0	0	0	0
30-1-23	0	0	0	4
31-1-10	12	0	20	16

アサリ殻長3cm以上 (個体数/m²)

地点名	5月	8月	11月	2月
対照区	0	0	0	0
19-2-1	228	168	160	68
29-1-12	0	0	0	0
30-1-23	144	0	132	144
31-1-10	0	4	0	0

オキシジミ (個体数/m²)

地点名	5月	8月	11月	2月
対照区	0	0	0	0
19-2-1	0	0	0	0
29-1-12	0	0	0	0
30-1-23	4	0	0	0
31-1-10	0	4	0	0

ニッコウガイ科 (個体数/m²)

地点名	5月	8月	11月	2月
対照区	16	20	8	4
19-2-1	128	28	32	12
29-1-12	16	0	0	0
30-1-23	64	12	0	0
31-1-10	4	0	28	76

オオノガイ (個体数/m²)

地点名	5月	8月	11月	2月
対照区	0	0	0	0
19-2-1	0	0	0	0
29-1-12	0	0	0	0
30-1-23	0	0	0	4
31-1-10	0	0	0	0

マテガイ (個体数/m²)

地点名	5月	8月	11月	2月
対照区	0	0	0	0
19-2-1	0	0	0	0
29-1-12	0	4	0	0
30-1-23	0	4	4	8
31-1-10	0	0	0	0

ソトオリガイ (個体数/m²)

地点名	5月	8月	11月	2月
対照区	0	0	0	0
19-2-1	0	4	0	4
29-1-12	0	4	0	0
30-1-23	16	8	0	0
31-1-10	0	0	0	0

ホトギスガイ (個体数/m²)

地点名	5月	8月	11月	2月
対照区	136	0	0	0
19-2-1	0	4	0	0
29-1-12	0	212	0	0
30-1-23	4	76	12	8
31-1-10	0	0	0	0

2 自然再生活動

(3) アサリ収穫（南潟）

- ・アサリ収穫量は328kg。(2月時点の数量。協議会での潮干狩りは実施できなかった。)
- ・このうち、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所が、4月～8月までの計10回で約328kgを漁獲し、道の駅等で、寄付付き商品として販売。



< 山口湾のアサリ採捕に係る規制措置 >

措置	根拠
・殻長2cm以下は採捕禁止(種苗としては可)	山口県漁業調整規則第37条
・11月～1月は採捕禁止	山口県漁協の資源管理措置(自主的)
・殻長3cm以下は採捕禁止 ・9月1日～11月30日の間は漁獲禁止	山口県瀬戸内海アサリ資源回復計画による漁獲努力量の削減措置(吉佐地区)

< 山口県のアサリ類漁獲量 >



2 自然再生活動

2.3 参考情報

(1) 南潟のベントス種

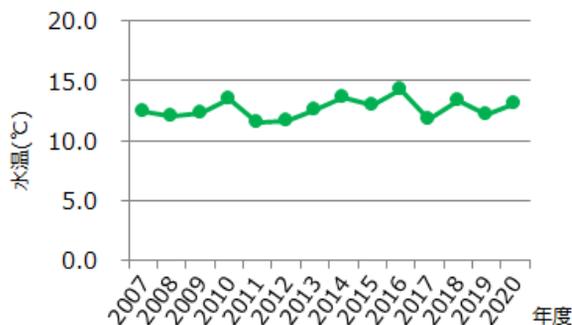
- ・2010年4月～2013年1月に、県環境保健センターと国立環境研究所の共同研究で、南潟に生息する底生生物(ベントス)調査が行われ、全212種類が確認されている。
- ・詳細は、第18回自然系調査研究機関連絡会議 調査研究・活動事例発表会の資料を参照(日時：2015年11月5日、発表者：県環境保健センター 恵本専門研究員ら)。

種類	種類数	種類	種類数	種類	種類数
不等毛植物	不明1	線形動物	1門	外肛動物	1種
紅色植物	3属+不明1	星口動物	1科	腕足動物	1種
緑色植物	3属	環形動物	57種+6科	棘皮動物	1種
刺胞動物	1科+2種	節足動物	64種+2目+2属	脊索動物	2種
扁形動物	2種	軟体動物	46種+2属		
紐形動物	11種+不明1	筈虫動物	1種		

(2) 瀬戸内海の海水温の推移

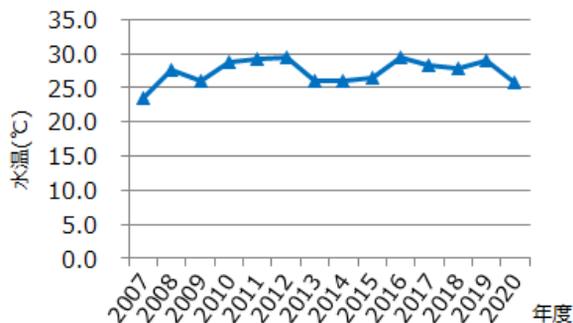
- ・県水産研究センターが実施している「周防灘定点調査」地点2：阿知須沖合(表層0m)の海水温データを集計した(山口県水産情報システム・海鳴りネットワーク参照)。

4月：瀬戸内海の海水温



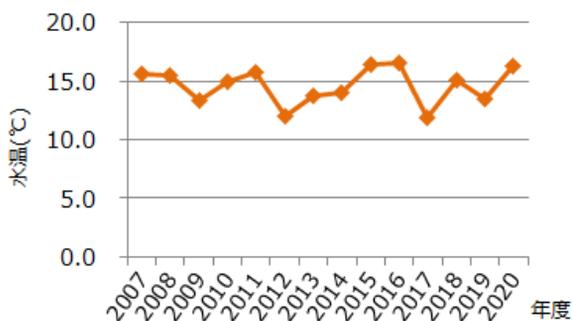
山口県水産情報システム・海鳴りネットワーク
周防灘定点調査：地点2阿知須沖合(表層0m)

8月：瀬戸内海の海水温



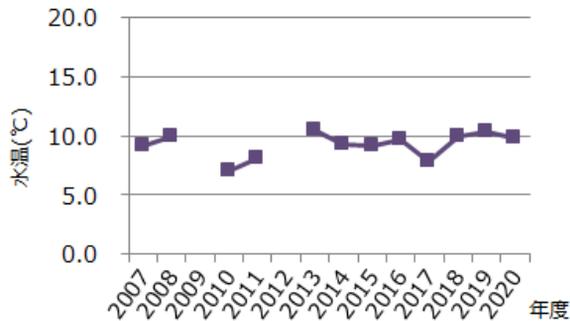
山口県水産情報システム・海鳴りネットワーク
周防灘定点調査：地点2阿知須沖合(表層0m)

12月：瀬戸内海の海水温



山口県水産情報システム・海鳴りネットワーク
周防灘定点調査：地点2阿知須沖合(表層0m)

2月：瀬戸内海の海水温

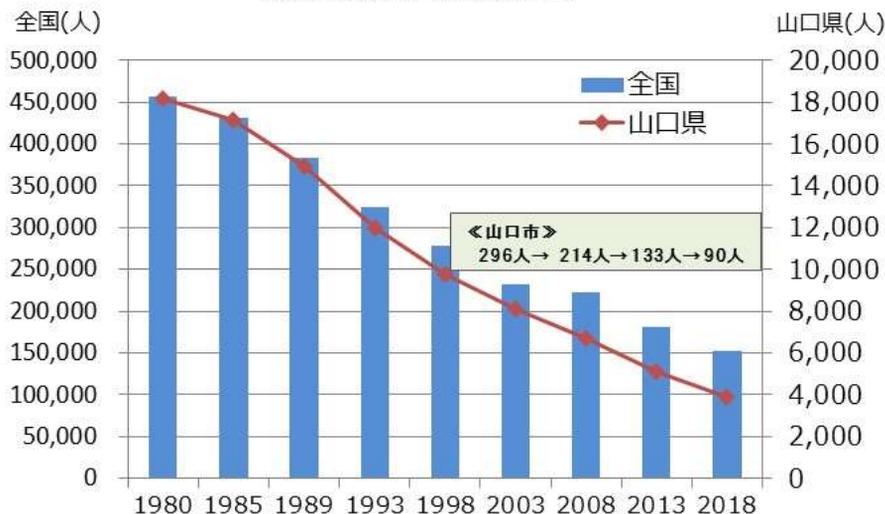


山口県水産情報システム・海鳴りネットワーク
周防灘定点調査：地点2阿知須沖合(表層0m)

2 自然再生活動

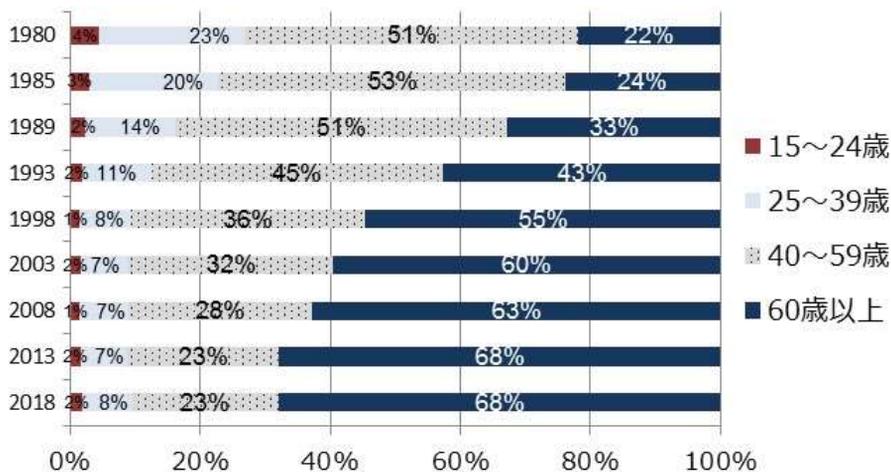
(3) 漁業従事者数

漁業就業者数の推移



山口農林水産統計年報から

山口県の漁業就業者の年齢構成(男性のみ)



山口農林水産統計年報から

3 環境学習

3.2 野鳥の教室

(1) 開催概要

- ・ 1回目：2020年10月31日(土) 10:00～12:00
- ・ 2回目：2021年2月28日(日)
- ・ 主催：山口市環境政策課

(2) 参加者

- ・ 1回目：13人
- ・ 2回目：33人

(3) 実施内容

野鳥の講話、バードウォッチング、工作教室を行った。



3 環境学習

3.4 カブトガニ観察会

3.4.1 岩屋

(1) 開催概要

- ・開催日：2020年8月2日(日)
- ・主催者：山口カブトガニ研究懇話会

(2) 参加者

地域の団体

3.4.2 長浜

(1) 開催概要

- ・開催日：2020年8月22日(土)14:00～16:15 ※ カブトガニ幼生生息調査と併せて開催
- ・主催：カブトガニWG
- ・協賛：あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店
(株)伊藤園山口支店（ご当地ペットボトルの無償提供、調査ボランティア）
- ・協力：あいおいニッセイ同和山口支店プロ会、(株)積水ハウス山口工場

(2) 参加者

38人(うち子ども15人)

(3) 取材

山口新聞（8/23掲載）



3 環境学習

3.5 二島小学校の環境学習

3.5.1 講話

(1) 実施概要

- ・実施日：2020年6月23日(火) 11:25～12:10
- ・実施者：環境学習WG(事務局)

(2) 参加者

二島小学校の5年生11人、教員2人

(3) 実施内容

- ・榎野川河口干潟やカブトガニ等の干潟の生物について紹介。



3.5.2 カブトガニ観察会（長浜）

(1) 実施概要

- ・実施日：2020年6月23日(火) 14:00～15:10
- ・実施者：山口カブトガニ研究懇話会、環境学習WG(事務局)

(2) 参加者

二島小学校の5年生11人、教員2人

(3) 実施内容

- ・総合学習として、カブトガニや卵塊を観察。

(4) 取材

- ・KRY（6/23放送）
- ・NHK山口放送局（6/23～6/24放送）
- ・宇部日報（6/24掲載）



3.5.3 干潟の生き物観察会（長浜）

(1) 実施概要

- ・実施日：2020年10月16日(金)
- ・実施者：環境学習WG(水産大学校、事務局)

(2) 参加者

二島小学校の5年生11人、教員3人

(3) 実施内容

- ・干潟の生き物を探索し、観察した。



3 環境学習

3.5.4 学習発表会

(1) 実施概要

- ・実施日：2021年1月19日(火) 13:20～14:50
- ・場 所：二島小学校
- ・目 的：父兄や地域住民を集めて実施する二島小学校の総合学習の発表会

(2) 参加者

二島小学校生徒、父兄、地域住民

(3) 実施内容

二島小学校の5年生は、総合学習の成果として、①ポスター、②模型、③歌・ダンスなどを作って発表した。

①ポスター

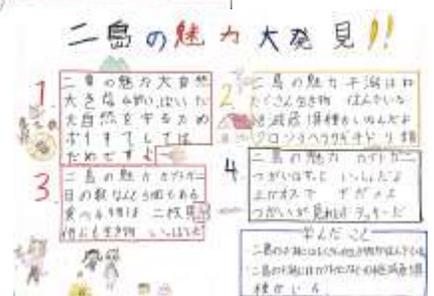
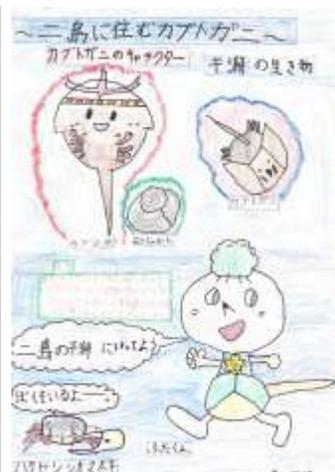
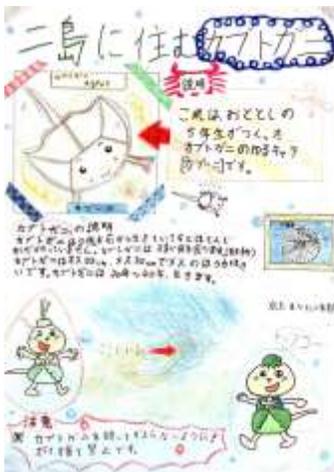
二島の魅力を地域の人に伝えるために、多くの人に見てもらい、情報も多く掲載できるポスターを制作した。

②模型

牛乳パックを使ったカブトガニの模型を作った。

③歌・ダンス

干潟やカブトガニのことを歌にして、それに合わせた振付をして、5年生全員でダンスを披露した。



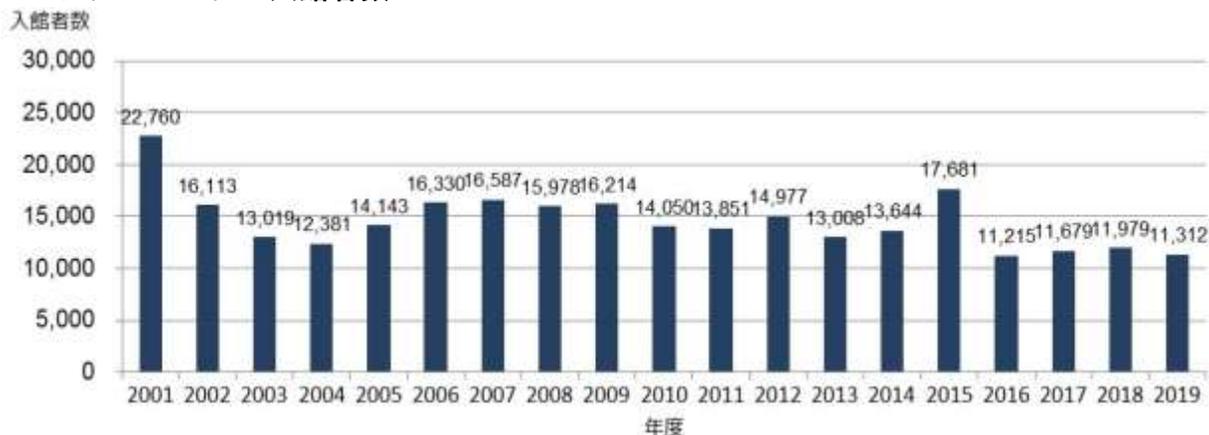
3 環境学習

3.6 山口県立きらら浜自然観察公園

(1) 施設概要

- ・開園日：2001年4月27日
- ・所在地：山口市阿知須509-53
- ・運営者：NPO法人野鳥やまぐち
- ・環境：淡水池 約3ha、ヨシ原 約6ha、干潟 約8ha、汽水池 約4ha、樹林帯 約2ha、淡水ビオトープ 約370㎡、トンボ池 約230㎡、汽水性植物池 約900㎡

(2) ビジターセンター入館者数



(3) 行事・調査研究等

● 自然と親しむ行事

バードウォッチング、野鳥撮影入門、工作教室、昆虫観察会、天体観察教室、子どもレンジャークラブ、紙芝居、ビデオ上映等

● 調査研究・環境保全活動

鳥類調査、トンボ調査、干潟の底生生物調査、水質調査、外来生物駆除、ヨシ焼き

(4) クロツラヘラサギの保全事業

- ・NPO法人野鳥やまぐちが、2018年度からサントリー世界愛鳥基金「水辺の大型鳥類保護部門」の助成を受け、県内外から傷病鳥を受け入れ、園内に設置した施設において保護・リハビリし、野生復帰を目指す「日本クロツラヘラサギ保護・リハビリセンター」の運用を開始。
- ・山口大学共同獣医学部、日本クロツラヘラサギネットワーク、宇部市常盤動物園協会、周南市徳山動物園、日本野鳥の会山口県支部、宇部野鳥保護の会、きらら浜自然観察公園葦の会、榎野川河口域・干潟自然再生協議会が事業協力。
- ・2018年、保護・リハビリ施設が完成。
- ・2019年、クロツラヘラサギの保全のための海岸清掃や繁殖地・越冬地の研究者を招待し、関係者を交えてクロツラヘラサギの現状・取組・問題点を共有する「クロツラヘラサギ国際シンポジウムinきらら浜」等を開催。



<クロツラヘラサギ>

ペリカン目トキ科。顔が黒くへら状のくちばしの特徴。東アジアのみに生息し、朝鮮半島等で繁殖し、日本や台湾等に渡って越冬。絶滅危惧ⅠB類(環境省レッドリスト2018)に指定され、近年、山口湾には30羽前後が飛来する。

4 学術研究・調査

4.1 学術研究・調査の一覧

干潟等において実施された学術研究・調査は下表のとおり。

場所	内容	実施主体
南潟、長浜	UAVを用いたカブトガニ産卵状況・幼生数調査	山口大学 大学院創成科学研究科 山本浩一
南潟	干潟差の大きい干潟における環境DNAのサンプリング方法の検討	環境学習WG 後藤委員
南潟	干潟に生息する肉食性巻貝と二枚貝の捕食－被捕食関係の解明	水産大学校 沿岸生態系保全研究室 安田氏、須田教授、南條助教
南潟	底生生物モニタリング調査	県環境保健センター環境科学部 干潟・水産資源再生WG
南潟	被覆網への藻の付着影響について	県環境保健センター環境科学部
中潟、南潟	干潟域を生活史で利用する魚類の生態と成育場の生息環境に関する研究① (魚類の生態に関する調査)	瀬戸内海区水産研究所 干潟生産グループ 辻野主任研究員、重田主任研究員
南潟	干潟域を生活史で利用する魚類の生態と成育場の生息環境に関する研究② (干潟環境に関する調査)	瀬戸内海区水産研究所 干潟生産グループ 辻野主任研究員、重田主任研究員
長浜、南潟、岩屋等	カブトガニ幼生生息調査	カブトガニWG 山口カブトガニ研究懇話会
山口湾	カブトガニ産卵調査	山口カブトガニ研究懇話会
山口湾	きらら浜自然観察公園のアサリ成育場所の造成	NPO法人野鳥やまぐち
山口湾	野鳥モニタリング	NPO法人野鳥やまぐち

4 学術研究・調査

4.9 カブトガニ幼生生息調査

(1) 長浜・南潟における調査

① 調査概要

● 長浜の実施概要

- ・実施日：2020年8月22日(土) 13:30～17:30 【中潮、最干潮14:40、潮位14.1cm】
- ・主催：カブトガニWG
- ・協賛：あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店
(株)伊藤園山口支店（ペットボトルの無償提供、調査ボランティア）
- ・協力：あいおいニッセイ同和山口支店プロ会、(株)積水ハウス山口工場
中村さん(調査終了後の参加者にかき氷の提供)
- ・参加者：51人(一般参加あり) ※カブトガニ観察会も併催

● 南潟の実施概要

- ・実施日：2020年8月31日(月) 11:00～14:00 【中潮、最干13:48・61cm】
- ・主催：カブトガニWG
- ・参加者：17人

● 調査方法

- ・設定した調査ライン上を1～3人で歩き、1ライン当たり2m幅で発見したカブトガニ幼生について、①個体数、②前体幅、③発見地点を記録(ベルトトランセクト法)。
- ・長浜では、16m間隔で20ライン(1,020m)の範囲を調査。南潟では、60m間隔で6ライン(1,000m)の範囲を調査。

進入禁止場所



4 学術研究・調査

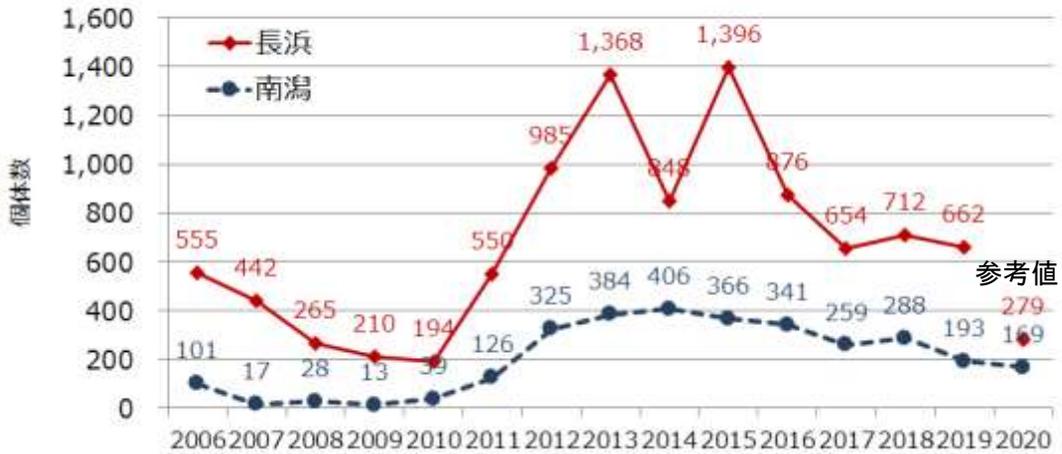
② 調査結果

● 発見個体数・推定個体密度

長浜は、調査時に雷雨があり中断した。

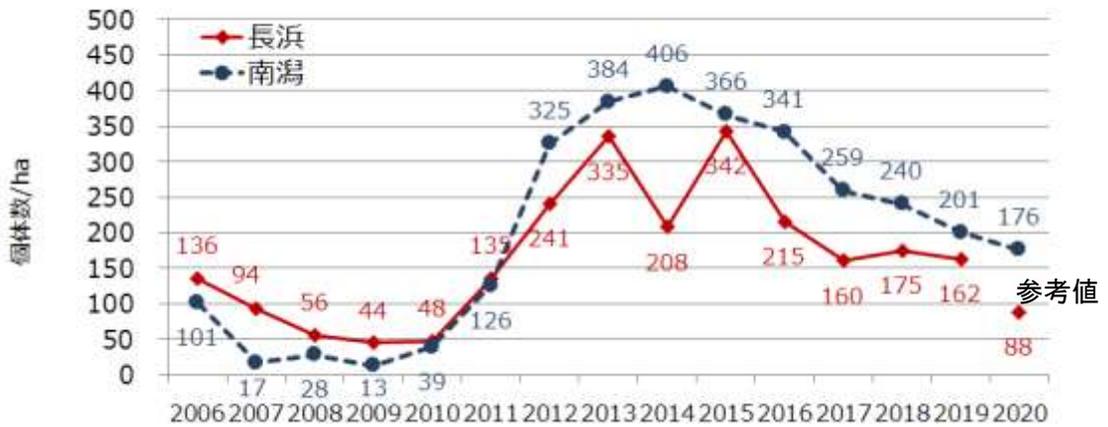
2020年度分は、中断前までの個体数を参考値として掲載。

長浜・南潟のカブトガニ調査結果 <発見個体数>



※南潟：2018年のみライン6 (300m) を実施

長浜・南潟のカブトガニ調査結果 <推定個体密度>



※南潟：2018年のみライン6 (300m) を実施

2 会議

2.1 協議会

(1) 第28回協議会会議

- **開催日**：2020年6月26日(金) 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため書面開催
- **内容**
 - ・第9期協議会委員について
 - ・2019年度活動報告について
 - ・榎野川河口干潟自然再生報告書、ニュースレターについて
 - ・第1回ふしの干潟いきもの募金の実績について
 - ・2019年度収支報告書、貸借対照表、財産目録について
 - ・2020年度年間活動計画について
 - ・第2回ふしの干潟いきもの募金の支援対象活動及びその実施者について
- **結果**

議案は承認された。

(2) 第29回協議会会議

- **開催日**：2021年3月 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため書面開催
- **内容**
 - ・2021年度活動報告
 - ・第2回ふしの干潟いきもの募金の支援対象活動の経過報告
 - ・2021年度の活動のについて
 - ・あいおいニッセイ同和損害保株式会社からの寄附金の贈呈について
 - ・委員の訃報について

2 会議

2.2 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社からの寄附金贈呈式

- 開催日：2021年2月12日（金）11:00～11:20
- 場 所：山口県庁共用第2会議室（山口市滝町1番1号）
- 出席者：

・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社山口支店	支店長	佐藤 大助
・あいおいニッセイ同和山口支店プロ会	会長	宮下 香津恵
・榎野川河口域・干潟自然再生協議会	会長	浮田 正夫
・山口県環境生活部	部次長	徳重 克彦
・山口市環境部	部長	山田 喜一郎
- 内 容
 - ・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社佐藤支店長あいさつ
 - ・榎野川河口域・干潟自然再生協議会浮田会長あいさつ
 - ・山口県環境生活部徳重部次長あいさつ
 - ・寄附金目録の贈呈、感謝状の贈呈
- 取 材
 - ・山口ケーブルビジョン（2/12～2/12放送）
 - ・山口新聞（2/13記事）
 - ・宇部日報（2/16記事）



2.3 自然再生協議会全国会議

(1) 開催概要

- ・開催日：2021年2月16日（火）10:00～17:10
- ・場 所：WEB開催（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）
- ・主 催：環境省自然環境局自然環境計画課（運営：株式会社総合環境計画）
- ・目 的：自然再生に取り組む自然再生協議会が情報交換し、課題への対応策等の情報共有を図るとともに、自然再生に取り組んでいる地域の現地視察を行い、全国の自然再生事業の更なる推進を図る。

(2) 参加者

環境省・農林水産省・各自然再生協議会等 56名

(3) 実施内容

- ・基調講演 日本ファンドレイジング協会理事 山元圭太氏
「持続可能な財源基盤とは ～ファンドレイジングの本質と手法について～」
- ・関係省庁からの情報提供
- ・自然再生協議会等の紹介
（株総合環境計画により、本協議会の紹介VTRを作成してもらった。）
- ・意見交換 テーマ：コロナ禍における活動の進め方
- ・パネルディスカッション
話題提供 東京大学名誉教授 鷲谷いづみ氏
「生態系スチュワードシップ」による「自然を生かした問題解決」
- ・過去の全国会議の開催状況について。

3 ふしの干潟いきもの募金

(5) 第2回ふしの干潟いきもの募金支援対象活動一覧

実施者		活動名	要望額/配分額
山口大学	山本 浩一	UAVを用いたカブトガニ産卵状況・幼生数調査	200,000
干潟・水産資源再生WG	水産大学校生物生産学科 沿岸生態系研究室	干潟に生息する肉食性巻貝と二枚貝の捕食-被食関係の解明	200,000
	環境保健センター環境科学部、自然保護課	底生生物モニタリング調査、被覆網への藻の付着影響調査	200,000
	NPO法人野鳥やまぐち	きらら浜自然観察公園におけるアサリ育成場所の造成	200,000
	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産GR 重田利拓・辻野 睦	干潟域を生活史で利用する魚類の生態と成育場の生息環境に関する研究	200,000
	後藤 益滋	干満差の大きい干潟における環境DNAのサンプリング方法の検討	200,000
カブトガニWG	原田直宏	カブトガニ幼生生息調査・観察会	200,000
持続可能な里海づくりWG	株式会社ライフスタイル研究所	榎野川河口干潟等における里海再生活動の共感者増加に向けた取組	80,000
榎野川流域連携促進協議会		榎野川河口干潟再生活動2020	200,000
榎野川河口域・干潟自然再生協議会事務局		ニュースレター作成	100,000
		物品購入費（被覆網）	200,000
ふしの干潟いきもの募金委員会事務局		事務費（振込手数料等）	15,000
合計			1,995,000

1 上流域における活動

1.1 環境保全活動

(1) 四季の森の森林整備

- ・ 仁保地区の住民により構成された「榎野川の源流を守る会」(2001年設立)が榎野川の源流域(仁保川源流)の保全のため、募金活動で買い上げた土地(2001年に山口市に寄付)。
- ・ 「四季の森」として仁保自治会により森林整備が続けられている。



(2) 冬季合同交流会（森林整備）

- ・ 開催日：新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止
- ・ 主催：榎野川流域活性化交流会



(3) あゆの放流事業

① 四十八瀬川をきれいにする会

● 行事概要

- ・ 実施日：2020年4月10日
- ・ 場所：四十八瀬川流域
- ・ 主催等：四十八瀬川をきれいにする会、上郷保育園、たんぽぽ保育園

● 行事内容

稚アユ約3,500匹を放流

② 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自粛又は中止した団体

- ・ 千坊自治会、仁保、宮野

2 中流域～河口域における活動

2.1 環境保全活動

(1) ナルトビエイ駆除

- ・時期：2020年8月～9月
- ・場所：百間橋
- ・実施者：榎野川河口干潟を守る会
(榎野川漁業協同組合)
- ・駆除数：2尾



(2) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自粛又は中止した活動

① 榎野川水系クリーンキャンペーン（河川清掃）

- ・開催日：2020年7月18日(土)
- ・主催：山口市、榎野川漁業協同組合、山口市快適環境づくり推進協議会

② あゆ産卵場造成・河川清掃

- ・開催日：2020年10月17日(日)
- ・実施者：榎野川流域活性化交流会

2.2 環境学習・啓発活動

(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自粛又は中止した活動

① あゆの日まつり

- ・開催日：2020年6月7日(日) ・場所：平川河川公園
- ・主催：榎野川漁業協同組合

② 水辺の教室等指導者研修会

- ・開催日：2020年5月14日(木)、6月2日(火) ・場所：県環境保健センター
- ・主催：環境学習推進センター ・協力：県環境保健センター

③ ふしの川漁協まつり

- ・開催日：2020年9月13日(日) ・場所：平川河川公園
- ・実施者：榎野川流域活性化交流会(パネル展示)

第9期権野川河口域・干潟自然再生協議会委員名簿

2020年6月28日時点

● 個人

【区分別・順不同】

区分	所属団体等	氏名	備考
学識者・研究者	山口大学名誉教授、NPO法人うべ環境コミュニティ 理事長	浮田 正夫	会長・募金委員
"	山口大学 大学院創成科学研究科 教授	関根 雅彦	会長代理
"	山口大学名誉教授	中西 弘	顧問
"	山口大学 大学院創成科学研究科 教授	朝位 孝二	
"	山口県立大学 看護栄養学部栄養学科 准教授	今村 主税	
"	山口県庁	恵本 佑	
"	山口県水産研究センター 内海研究部 専門研究員	石田 健太	
"	山口大学 大学院創成科学研究科 専門研究員	後藤 益滋	環境学習WGリーダー
"	下関市立大学名誉教授、NPO法人環境みらい下関 理事長	坂本 敏二	
"	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ 主任研究員	重田 利拓	
"	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ 主任研究員	辻野 睦	
"	山口大学 大学院創成科学研究科 助教	白水 元	
"	水産大学校 校長	須田 有輔	
"	山口大学 大学院創成科学研究科 教授	関根 雅彦	
"	一般財団法人九州環境管理協会 環境部長	藤井 曉彦	
"	山口大学 大学院創成科学研究科 准教授	山本 浩一	
"	山口大学 大学院創成科学研究科 教授	赤松 良久	
地域住民等	山口市	氏永 東光	
"	山口市	岡村 知法	
"	岩国市・環境ネットワークいわくに	恩田 浩幸	
"	山口市・株式会社梶田建設	梶田 博志	
"	長門市・ライフスタイル協同組合・あなたとNAGATOを結び隊	久保田 啓子	
"	山口市	田村 一男	
"	山口市	二井 淳夫	
"	山口市・権野川流域連携促進協議会	西嶋 裕作	
"	山口市・独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 山口支部	平田 明子	監査
"	山口市（地元漁業経験者）	宮崎 武二	
"	防府市・株式会社協和コンサルタンツ 山口営業所	守田 良則	
"	防府市・一般財団法人山口県環境保全事業団	山野 元	
"	山口市役所	山村 秀明	監査
"	山口県庁	山本 倫也	
計			30

● 団体

【五十音順】

地域	団体名	代表者等	備考
山口市	秋穂二島地区連合自治会	会長 野島 義正	
下関市	国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校 生物生産学科 沿岸生態系保全研究室	助教 南條 楠士	干潟・水産資源保全WGリーダー
山口市	権野川漁業協同組合	代表理事組合長 横部 政明	
山口市	権野川流域活性化交流会	会長 渡邊 久夫	
山口市	権野川流域連携促進協議会	会長 西嶋 裕作	
周南市	特定非営利活動法人水環境地域ネットワーク	代表 表 岡谷 政宏	
山口市	特定非営利活動法人野鳥やまぐち	理事 事 原田 量介	
山陽小野田市	山口カプトガニ研究懇話会	代表 表 原田 直宏	カプトガニWGリーダー
山口市	山口県漁業協同組合嘉川支店	運営委員長 渡邊 久夫	
山口市	山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所（山口湾漁業権管理組合）	運営委員 上田 篤	
山口県	公益財団法人山口県ひとつくり財団 環境学習推進センター	所 長 酒井 理	
山口県	特定非営利活動法人やまぐち県民ネット21	理事 事 船崎 美智子	
美祿市	特定非営利活動法人やまぐち里山ネットワーク	所 長 赤川 瑞夫	
山口県	やまぐち自然共生ネットワーク	会 長 中村 裕三	
山口市	山口中央森林組合	代表理事組合長 戸田岸 巖	
周南市	株式会社ライフスタイル研究所	代表取締役社長 船崎 美智子	持続可能な発展づくりWGリーダー
計			16

● 関係地方公共団体・関係行政機関

【区分別・順不同】

区分	所属	代表者等	備考	
地方公共団体	山口県環境生活部 自然保護課	課 長 栢 耕太郎	事務局・募金事務局	
	山口県農林水産部 農村整備課	課 長 長嶺 栄治		
	山口県農林水産部 水産振興課	課 長 中村 圭吾	事務局	
	山口県土木建築部 河川課	課 長 坂本 和彦	事務局	
	山口県土木建築部 港湾課	課 長 布田 昌司	事務局	
	山口県山口健康福祉センター	所 長 西田 秀樹		
	山口県山口農林水産事務所（農村整備部・水産部）	所 長 久田 恒夫		
	山口県防府土木建築事務所	所 長 片山 克浩		
	山口県環境保健センター	所 長 調 恒明	募金委員	
	山口県環境部 環境政策課	課 長 石川 曉男	事務局・募金委員	
	山口県経済産業部 水産港湾課	課 長 岡村 弘樹	事務局	
	関係行政機関	環境省中国四国地方環境事務所 国立公園課	生物多様性企画官 中田 茂巳	
		水産庁瀬戸内海漁業調整事務所	資源課 長 平松 大介	
	近畿中国森林管理局山口森林管理事務所	森林技術指導官 國永 一彦		
計			14	

合計			60
----	--	--	----